

基本方針2 公私の切磋琢磨により高校の教育力を向上させます（2）活力あふれる府立高校づくりをすすめます

【重点取組の点検結果】

項目		計画策定時の現状 (24年度)	目標 (29年度)	実績 (25年度)	進捗 状況	実施事業（25年度）	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
7 社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実	24 グローバルリーダーズハイスクール（進学指導特色校）の充実	グローバルリーダーズハイスクール10校		グローバルリーダーズハイスクール10校	○	(継)さらなる特色づくり推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆10校共同の取組みを実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習合宿や進学講習の実施 ・学力診断共通テストの実施(4/9) ・海外派遣研修（生徒20名をハーバード大学などに派遣（7/28～8/4）） ・京都大学・大阪大学と連携した取組み（京大キャンパスガイド(12/14)、ハンダイTalk LIVE(10/20,10/27)など） ・10校合同発表会(2/8、大阪大学会館) ◆10校のパフォーマンス評価を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・5名の外部有識者で構成する評価審議会を開催し、24年度の各校のパフォーマンス評価を行い、結果を公表(25.7) ・25年度評価に向け、評価審議会委員による学校視察(26.2)、学校長からのヒアリング(26.3)を実施
		再指定制度の構築（指定校入替、新規指定など） (25年度～)	再指定制度の構築	再指定制度を構築し、26年度からの新規指定希望校に対してヒアリングを実施した。			
		文理学科の拡充の検討 (25年度～)	文理学科の拡充の検討	文理学科の拡充について検討を行った。			
		進学実績等の向上、取組みの活性化など、パフォーマンスのさらなる向上 (25年度～)	進学実績の向上 (現役進学率 24年度:60.6% →25年度: 62.7%)	上記(10校共同の取組み、パフォーマンス評価の実施)と同じ			

項目		計画策定時の現状 (24年度)	目標 (29年度)	実績 (25年度)	進捗 状況	実施事業(25年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
7 社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実	25 国際関係学科の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・国際教養科を設置する学校 6校 ・国際文化科を設置する学校 3校 ・国際科(グローバル科)を設置する学校 0校 	国際関係学科の新たな方向性を検討(25年度～)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際教養科を設置する学校 6校 ・国際文化科を設置する学校 3校 ・国際科(グローバル科)を設置する学校 1校 	△	(新)国際関係学科の充実	豊かな語学力、コミュニケーション能力、論理的思考力や健全な批判力を身に付け、国際的に活躍できる「グローバル人材」を育成するため、25年4月府立和泉高校に国際科(グローバル科)を設置した。
	26 新たな学科・コースの設置や改編	専門学科 35校 専門コース設置校 30校	新たな専門学科の設置(専門コースからの移行を含む) (25年度～) 新たな専門コースの設置 (25年度～)	専門学科 36校 専門コース設置校 29校	○	(継)新たな学科・コースの設置や改編	25年4月府立和泉高校に国際科(グローバル科)を設置した。 ◆府立布施高校に2つの専門コース(理数アドバンスト・人文アドバンスト)を新たに設置した。 ◆27年度入学生より、府立八尾翠翔高校、府立日根野高校に、新たに専門コースを設置することを公表した(11/22)。

項目		計画策定時の現状 (24年度)	目標 (29年度)	実績 (25年度)	進捗 状況	実施事業（25年度）		
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容	
7 社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実	27 工科高校の充実	高度な職業資格合格者 150 人 (注1)	高度な職業資格合格者 300 人	高度な職業資格合格者 216 人	△	(継)実業教育充実事業	◆マシニングセンタやCAD/CAMレーザー加工機など、老朽化や安全性を考慮し設備を更新するとともに、産業界からのニーズや新学習指導要領に対応した設備を導入した。 ◆26年4月から各校が人材育成の重点化を図ることとし、「大学との連携」、「資格取得」、「地域企業との連携」についてそれぞれ3校の指定を行った。 「大学との連携」に重点を置く3校には、26年度から、大学進学に対応した「工学系大学進学専科」を設置することとした。 また、「資格取得」に重点を置く3校では、資格取得に係る学校設定科目の設置や補習・講習の充実などの取組みを推進することとした。	
		工科系大学への進学実績 121 人 (注2)	工科系大学への進学実績 200 人	工科系大学への進学実績 84 人			教員の「1人1資格」	26年度実施予定の調査の内容及び方法を検討
	28 農業高校の充実	—	—	—			—	(新)農業高校の充実

(注1) 計画策定時は23年度実績（高度な職業資格合格者 173 人）を記載していたが、24年度実績に修正した。

(注2) 計画策定時は23年度実績（工科系大学への進学実績 121 人）を記載していたが、24年度実績に修正した。

項目		計画策定時の現状 (24 年度)	目標 (29 年度)	実績 (25 年度)	進捗 状況	実施事業 (25 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
7 社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実	29 大阪府教育センター附属高等学校の充実	—	—	—	—	(継)大阪府教育センター附属高等学校の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆外部連携による授業プログラムの開発 <ul style="list-style-type: none"> ・1年の学校設定科目「探究ナビ I」において、企業の協力を得て、携帯電話の商品開発について、生徒が研究発表した。 ・宇宙講座の課外活動として、兵庫県の西の端にある「西はりま天文台公園」で実習を行った。(12/21～1泊2日) ◆ICT機器を活用した授業の実践 <ul style="list-style-type: none"> ・「探究ナビ」や体育において、タブレット端末を活用した授業を実施した。 ・英語において、電子黒板を活用した授業を実施した。 ◆観点別評価についての研究と成果の普及 <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省事業の「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」を実施した。
	30 生徒の「学び直し」等を支援する新たな学校の設置	—	—	—	—	(新)エンパワメントスクールの設置	25 年 11 月にエンパワメントスクール 3 校(西成高校、長吉高校、箕面東高校)の設置を決定した(27 年 4 月開校予定)。
	31 通信制の課程の充実	—	—	—	—	(継)通信制の課程の充実策の検討	<ul style="list-style-type: none"> ◆通信制の課程の充実については、25 年度から 30 年度を計画期間とする「大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画」(25 年 11 月策定)において、「引き続き検討を行う」こととした。 ◆25 年度は、株式会社立の通信制高校が大阪市内に設置される予定であることも踏まえ、今後の通信制の志願動向を見極めるための情報収集を行った。

項目		計画策定時の現状 (24年度)	目標 (29年度)	実績 (25年度)	進捗 状況	実施事業 (25年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
7 社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実	32 生徒の授業アンケートを活用した授業改善	「授業アンケート分析システム」の作成開始	「授業アンケート分析システム」の完成 (25年度)	「授業アンケート分析システム」の完成・配付	○	(新) 授業評価・授業改善推進事業	授業アンケート分析システム及び活用マニュアルを各学校に配付した。
		府立高校 27 校に対し、パッケージ研修を実施	府立高校全校に対するパッケージ研修支援の完了 (27年度)	府立高校 53 校に対し、パッケージ研修を実施	○	(継) 府立高校パッケージ研修支援	授業評価等から明らかになった授業改善に関する課題を解決すべく、組織的な校内研修体制を確立するとともに、教員全体の授業力を向上させるため、各校の実態に応じた授業観察シートを作成するなど、継続的な支援を実施した。
8 生徒の自立を支える教育の充実	33 デュアル総合学科の設置及び「デュアル実習」実施校の拡大	「デュアル実習」実施校 2 校	「デュアル実習」実施校の拡大 5 校	「デュアル実習」実施校 3 校	○	(新) デュアル総合学科の設置及び「デュアル実習」実施校の拡大	地域の事業所等と連携したデュアル実習等を通じて、社会人基礎力を身に付け、社会の構成員として必要な力を備えた人材を育成するため、25年4月府立布施北高校に「総合学科(デュアル総合学科)」を設置した。
	34 「夢や志をはぐくむ教育」の推進	—	—	—	—	(継) 「志(こころざし)学」の実施	25年度大阪府教育センター研究フォーラムの分科会(12/25)において、「志(こころざし)学」の取組みについて、実践発表とパネルディスカッションを実施し、「志(こころざし)学」実践事例集の作成に向け、優れた実践例を蓄積した。 (府内幼小中高教員・指導主事 32人参加)

項目		計画策定時の現状 (24年度)	目標 (29年度)	実績 (25年度)	進捗 状況	実施事業(25年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
8 生徒の自立を支える教育の充実	35 不登校の減少・中途退学防止の取組み	中退防止コーディネーターの配置 35校	中途退学の課題が集中する学校に対して中退防止コーディネーターを配置	中退防止コーディネーターの配置 33校	△	(継)中退防止コーディネーター配置	<p>◆6～7月に、中退防止コーディネーターを配置している学校からのヒアリングを実施し、今年度の取組みや数値目標、校内組織の体制について確認した。</p> <p>◆中退防止コーディネーター連絡協議会を2回実施し、各校の取組みを共有化した。</p> <p>◆12月に中退防止フォーラムを開催し、全府立高校及び市町村立中学校を対象に、取組みの成果を発信した。</p>
		冊子「中退の未然防止のために」を活用	冊子「中退の未然防止のために」(改訂版)をすべての学校で活用する	冊子「中退の未然防止のために」の改訂に向けて効果のあった取組みの情報収集を実施		(継)「中退の未然防止のために」改訂	「中退の未然防止のために」の冊子に、効果的な取組みの事例を取り入れるよう改訂することで充実した内容とし、また全府立高校への活用を促した。
		—	—	—	—	(継)教育センターにおける相談機能の充実	<p>様々な悩みを持つ子どもや保護者等に対し、効果的かつ効率的な相談を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専用電話相談の実施 ・24時間相談窓口の実施 ・教職員の悩みの相談の実施 ・対面相談の実施 ・集中電話相談の実施及びインターネットによるメール相談の実施
		高校適応指導教室の設置数 1カ所	高校適応指導教室の充実	高校適応指導教室の設置数 1カ所 (入室者数 延べ23名)	○	(継)高校適応指導教室の設置	不登校生徒に対する支援プログラムを開発し、学校訪問を通じて支援プログラムの普及を図った。

項目		計画策定時の現状 (24年度)	目標 (29年度)	実績 (25年度)	進捗 状況	実施事業(25年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
8 生徒の自立を支える教育の充実	35 不登校の減少・中途退学防止の取組み	サポート拠点数1カ所	サポート拠点数10カ所	サポート拠点数4カ所	○	(継) 高校中退・不登校フォローアップ事業	若者等を支援するNPO等の専門支援員が、学校内外に設置した居場所(カフェ等)を訪れた生徒に対し、教員からの情報も参考に様々な相談に応じ、個々の生徒の状況に応じた支援プログラムを作成し、学業復帰等を支援した。 ※NPO等4団体が計8校と連携し、延べ6,690人(実数759人)を支援
	36 障がいのある生徒の高校生活をサポートするための人材の配置	スクールカウンセラー151校配置	スクールカウンセラーや学校生活支援員、学習生活支援員を希望する全府立高校に配置(26年度)	スクールカウンセラー全府立高校(154校)に配置	○	(継) 障がいのある生徒の高校生活支援事業	エキスパート支援員として、25年度より全ての府立高校にスクールカウンセラーを配置した。
		・学校生活支援員(介助員)34校 ・学習生活支援員(学習支援員)28校		・学校生活支援員(介助員)30校 ・学校生活支援員(学習支援員)27校			生徒一人ひとりの障がいの状況に応じた学校生活支援を行うため、学習支援員、介助員を配置した。 (学習支援員27校、介助員30校)
37 長期入院している生徒等への学習支援 【具体的取組46の再掲】		非常勤講師を6校に配置	学校からの要請に基づき非常勤講師を配置(25年度～)	非常勤講師を11校(対象12名)に配置	○	(継) 長期入院生徒学習支援事業	生徒の入院している病院等へ在籍校の教員が出向き、状況に応じた授業を行うため、非常勤講師を11校に配置した。
			遠隔授業システムの運用開始(25年度)	・4校で遠隔授業サポートシステムを利用 ・利用における機器の設置方法等を確立		(継) 長期入院生徒学習支援事業	ICTを活用して、自宅等で双方向の授業に参加できる仕組みとして、遠隔授業サポートシステムの運用を開始し、利用の状況を踏まえながら、システムの改良を行った。

項目		計画策定時の現状 (24年度)	目標 (29年度)	実績 (25年度)	進捗 状況	実施事業 (25年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
9 つながり をはぐくむ 学校づくり	38 学校協議会による保護者・地域ニーズの反映 【基本方針 7 具体的取組 124 再掲】	学校協議会に関する情報の公表状況 87.0% (注)	学校協議会に関する情報の公表状況 100%	学校協議会に関する情報の公表状況 90.9%	△	(継) 学校協議会の運営 (新) 保護者の申し出制度	全ての府立学校において、学校協議会委員の委嘱を行い (24年 8月)、運営を開始。全府立学校で年 3 回以上会議を開催した。また、学校協議会に関する情報を公表していない学校に対し、個別に指導を行った。 保護者が、郵送、投稿、メール等により協議会に授業や教育活動に関して意見書を提出できるようにするとともに、意見について、必要に応じて協議会での調査審議を経て、校長に具申されるよう条件を整備した。
	39 専門的知識を有する社会人の積極的な活用	人材バンク登録者数 5,556 人	人材バンク登録者数 7,000 人	人材バンク登録者数 6,267 人	○	(継) 社会人等活用推進事業	【特別非常勤講師】 教員では担当できない領域や内容について、専門的知識・技能を有する社会人等 (担当する教科の教員免許状を持たない) が授業を担当し、生徒の学習活動などに対する成績評価を行った。 86 校、計 21,578 時間 【社会人等指導者】 文科系部活動、帰国・渡日生に係る異文化交流指導、福祉に係る授業において、専門的知識・技能を有する社会人等が教職員の補助的な立場で教育活動を支援した。 ・文科系部活動 134 校、計 2,663 回 ・帰国・渡日生支援 14 校、計 589 回 ・福祉に係る授業 22 校、計 427 回

(注) 計画策定時は 23 年度実績 (50.3%) を記載していたが、24 年度実績に修正した。

項目		計画策定時の現状 (24年度)	目標 (29年度)	実績 (25年度)	進捗 状況	実施事業 (25年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
9 つながり をはぐくむ 学校づくり	40 中高一貫 教育の取組み	連携中学生の能勢高校入学割合 35.8%	連携中学生の能勢高校入学割合 50.0%	連携中学生の能勢高校入学割合 43%	○	(継)連携型中高一貫教育の充実	(能勢高校) ◆会議の開催 ・小中高一貫教育総会 (5/22、小中高教員が参加) ・能勢高校の将来を検討する会議 (8/8, 1/29) ・能勢高校を応援する会総会 (8/25) ◆生徒交流 ・能勢高校体験入学 (7/9, 10/18, 2年全員) ・能勢高校文化祭折り鶴の壁画 (9/28) ・能勢高校土曜日講習会 (10/12~2/15) ・小中高一貫教育研究発表会 (11/20) ◆教員交流 ・子ども支援部会 (7/10, 9/10, 12/5)、進路指導部会 (7/12)、教育課程部会 (3/19)
		柏原東高校の中高一貫選抜募集人員 60名	柏原東高校の中高一貫選抜募集人員 80名	柏原東高校の中高一貫選抜募集人員 60名		(柏原東高校) ◆会議の開催 ・中高一貫推進委員会 (府教委、市教委、高校、7中学校で構成) (6/24) ◆生徒交流 ・連携授業「書写・書道」を年5回実施 ・バドミントン部等が中高合同練習実施 ・学校説明会、オープンスクールを3回実施 (10月, 12月, 1月、計320人参加) ・第5回中高書写・書道合同展覧会開催 ◆教員交流 ・中高共同研修会を夏期休業中に実施 ・中高の交流、研修の場として、「第二土曜研修」を定期的に開催	

項目		計画策定時の現状 (24年度)	目標 (29年度)	実績 (25年度)	進捗 状況	実施事業(25年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
9 つながり をはぐくむ 学校づくり	41 高大連携 の推進	府教委との包括協定を締結している大学 22 大学	府教委との包括協定を締結する大学 25 大学	府教委との包括協定を締結している大学 22 大学	○	(継)包括協定締結校の拡大	関西学院大学と府教育委員会との連携に関する協定締結に向けた調整会議を実施した。(2/3)
		大学での講義の受講により単位認定を行う学校 19 校 (23 年度)	大学での講義の受講により単位認定を行う学校 25 校	— ※隔年調査 (26 年秋頃集計予定)	—	(継)高大連携の推進	◆大阪工業大学と大阪府立工科高等学校(高大連携重点型校)との連携に関する覚書を締結した。(12/3 調印式) ◆大阪工業大学とサイエンススクールネットワークとの連携に関する覚書を締結した。(12/20 調印式) ◆大阪府立大学と府教育委員会との連携の充実に向け、調整会議を実施した(3/26)。
	高大連携実施校の割合 76.8% (23 年度)	高大連携実施校の割合 80%	— ※隔年調査 (26 年秋頃集計予定)	—			
	42 公立大学 法人大阪府立 大学との連携 推進	府立大学の高大連携講座を受講する学校数 6 校	高大連携講座を受講する学校数を増やす 15 校	府立大学の高大連携講座を受講する学校数 8 校	○	(新)公立大学法人大阪府立大学との連携推進	◆高大連携集中講座(参加 8 校) ・『工学研究の最先端(担当教員 14 名)』1 校 3 名修了 ・『総合リハビリテーション学への招待(担当教員 4 名)』7 校 11 名修了 ・『セクシュアリティと看護(担当教員 4 名)』1 校 10 名参加 ◆出張講義 18 校に対し、延べ 34 名の大学教員を講師として派遣した。

項目		計画策定時の現状 (24年度)	目標 (29年度)	実績 (25年度)	進捗 状況	実施事業(25年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
10 学習環境 の整備	43 府立学校 施設の耐震性 能向上・大規 模改修 【基本方針8 具体的取組 131の再掲】	校舎の耐震化 府立高校 77.6% 府立支援学校 79.3%	校舎の耐震化 府立高校・府 立支援学校： 26年度末に 100%	校舎の耐震化 府立高校 93.6% 府立支援学校 88.9%	○	(継)耐震性能向 上・大規模改造事 業	府立高校44校114棟、府立支援学校4校8 棟で耐震大規模改修工事を実施した。
			非構造部材 府立高校・府 立支援学校： 屋内運動場等 の照明器具等 落下防止対策 を27年度未完 了めざして実 施	非構造部材の設 置者点検及び転 倒防止対策の実 施	△		◆屋内運動場等の非構造部材の設置者点検 (委託業者による点検)を実施した。 ◆ロッカー等物品の転倒対策として、転倒防 止金具の購入、取付を実施した。
	44 府立学校 の老朽化対策 と空調設備等 の整備推進 【基本方針8 具体的取組 130の再掲】	昭和47完了～ 19年度完了の31 校で改築を実施	25年度に老朽度 調査及び整備計 画策定 以降、計画に基づ き老朽化対策の 実施 (25年度～)	施設整備計画の 策定に向けて、19 校の老朽度調査 を実施	△	(新)府立学校老 朽化対策事業	今後の府立学校の施設整備計画の策定に向 けて、各建設年度から抽出した19校の校舎 の老朽度調査を実施した。
		・特別教室への空 調設備の設置 32校95教室 ・トイレの改修 4校 ・バリアフリー化 5校	特別教室への空 調設備の設置 全体で98校302 教室 (～27年度)	・特別教室に空調 機を設置 32校95室 ・トイレ改修 4校 ・バリアフリー化 7校	○	(継)特別教室空 気調節設備整備 事業 (継)校舎等維持 補修事業 (継)福祉対策整 備事業	以下、設備等を整備した。 ・特別教室への空調機の設置 (府立高校27校、府立支援学校5校) ・トイレ改修の実施(府立高校4校) ・エレベーターの設置(府立高校4校)、 障がい者用トイレ等の設置 (府立高校2校) ・段差解消、手摺り等の設置 (府立支援学校1校)

項目		計画策定時の現状 (24年度)	目標 (29年度)	実績 (25年度)	進捗 状況	実施事業(25年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
10 学習環境 の整備	45 府立学校のICT環境の充実による「わかる授業」の実現【基本方針7 具体的取組127の再掲】	府立学校統合ICTネットワークの構築 利用用途に応じて3つのネットワークを整備	府立学校統合ICTネットワークの構築 教職員ネットワークと校内イントラネットの統合化により、SSC、校務処理等の作業が1台の端末で利用可能(26年度)	26年4月の本格稼働に向け、1月末に全府立学校の統合工事が完了	○	(継)府立学校教育ICT化推進事業	教職員ネットワークと校内イントラネットの統合化のため、回線サービス・データセンター運用・サーバ等機器の調達を実施し、ネットワークを構築した。
		校務処理システムの導入 パイロット校22校において実証テスト実施中	校務処理システムの導入 全府立学校で稼働(25年度)	26年2月から校務処理システムは府立学校統合ICTネットワークに移設し、稼働開始		◆府立学校統合ICTネットワーク上での校務処理システムを稼働した。 ◆学校情報ネットワークの再構築に向け、調査検討及び概要設計業務を委託するため、26年度の事業(学校情報ネットワーク再構築事業費)を予算措置した。	
		21年に国費により生徒用パソコンを調達(15,487台)	生徒用パソコンの更新(28年度)	各学校の生徒用パソコン活用状況について調査を実施		(継)学校情報ネットワーク整備事業 各学校の生徒用パソコン活用状況について調査を実施した。	
	46 在宅等で学習する生徒へのICTを活用した支援	—	遠隔授業システムの運用開始(25年度)	・4校で遠隔授業サポートシステムを利用 ・利用における機器の設置方法等を確立	○	(継)長期入院生徒学習支援事業	ICTを活用して、自宅等で双方向の授業に参加できる仕組みとして、遠隔授業サポートシステムの運用を開始し、利用の状況を踏まえながら、システムの改良を行った。

項目		計画策定時の現状 (24年度)	目標 (29年度)	実績 (25年度)	進捗 状況	実施事業(25年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
11 公平でわかりやすい 入学者選抜の実施	47 入学者選抜の調査書における目標に準拠した評価(絶対評価)の導入	相対評価による調査書を活用した入学者選抜	目標に準拠した評価(絶対評価)への移行 (最短で、28年度選抜での実施)	調査書の取扱いや評価項目等について検討 ・中学校における学習評価に関する参考資料の作成・配付 ・中学校の校長及び教科担当教員対象の学習評価に関する研修会	○	(新)調査書の改善に関する検討会議	調査書の評価方法を見直すにあたり、25年6月に教育委員会事務局内に「調査書の改善に関する検討会議」を設置。市町村教育委員会、公立中学校長、府立高等学校長の代表等と5回にわたり調査書の取扱いや評価項目等について議論し、意見をとりまとめた。 中学校における学習評価の充実に向けた取組みを支援するため、参考資料を作成・配付するとともに、研修会を行った。
	48 中学校における進路指導の充実	進路希望調査を府内全域で集約	・府教育委員会主催で各地区の進路指導の核となる学校の校長・担当者会の実施 年5回 (25年度～) ・各地区・地域ごとに進路指導に係るネットワークの構築 (26年度～)	進路指導地区代表者連絡会 6回開催		◎	(継)中学校進路指導推進緊急支援事業
12 活力ある学校づくりをめざした府立高校の再編整備	49 府立高校の再編整備の計画的な推進	再編整備方針の策定	年次計画に基づく再編整備の実施 (目標年次:30年度) (26年度～)	「大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画」の策定	○	(新)府立高等学校再編整備事業	25年11月に「大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画」を策定するとともに、エンパワメントスクール3校の設置、普通科総合選択制4校の改編(エンパワメントスクールへの改編を含む)を決定(27年4月改編予定)。